

# 義務教育学校を含めた学校の統廃合計画

## 市内西部地域の学校はどうなるのか？

教育委員会は、小中学校の9年間を同一の学校で学ぶ「義務教育学校」を軸に、市内の小中学校の再編計画を検討中です。

6月には、どこの学校をどのように変えるかを明記した「たたき台」を発表しました。この中に示された阿寒・音別を含めた西部の学校の再編内容をお知らせします。

### 教員が相当数減る

学校が減ることによって先生の数が減ります。小学校同士を統合してもクラス数は余り増えませんが、教員は大幅減です。教員が減れば、それだけひとりの子どもを見る目が減り、きめ細かな指導が行き届かなくなるかもしれません。

世界と比べて日本の教師数が少ないのは周知の事実、さらに

これが減ることになります。教員の人数を減らして、本当の教育の中身がよくなるのでしょうか。

### 大楽毛西の通学距離が伸びる

先日、車を走らせてみましたが、西1丁目の奥から中学校の入り口まで3・5キロありました。スクールバスをふくめた対応が必要になります。市はおおむね小学校で2キロ以上、中学校で3キロ以上でスクールバスを運行しています。

## 大楽毛、阿寒、音別は9年生の義務教育学校 新陽小をなくして鳥取小学校に統合 通学区域を見直す

- ◎大楽毛小をなくして、大楽毛中の校舎を義務教育学校にする。
- ◎阿寒中をなくし、阿寒小の校舎を義務教育学校にする。
- ◎音別も義務教育学校にするが、小中どちらの校舎を残すか決まっていない。

◎星が浦大通3から4丁目、および星が浦南の一部の小学生は鶴野小から大楽毛義務教育学校に変更  
◎星が浦北3から4丁目、鶴野の一部の中学生は大楽毛中学校から鳥取西中学校に変更などを計画

学校が小規模化して、クラス替えができない、部活も成り立たなくなってきた等の理由も説明されています。しかし、日本は一クラスの人数が、先進国の中で飛びぬけて多い国です。他の先進国ではなぜ一クラスにそんなにたくさんの子を押し込めようとするのか、理解できないのではないのでしょうか。

結局、学校を減らせば施設の維持費、将来の建て替え費用を大幅に圧縮することが可能です。そんなところにも、再編の動機があるのではないのでしょうか。

## 大楽毛の津波避難施設として、小学校の屋上を活用!?

学校の再編は、津波避難施設とも密接にかかわっています。国による津波高の見直しがあり、これまで「水没する」とされていた小学校の屋上が津波避難場所として活用できる可能性が出てきました。屋上にあがる外階段などの整備も必要になるでしょう。



小学校の屋上が避難場所となれば、「生活館、児童館、老人福祉センターの複合施設」に避難所を併設するというプランの見直しも避けられませんが、

ただし、小学校が中学校に統合され、空き校舎となれば避難所に使うことは事実上不可能です。別のジレンマも生まれています。

住民の声をしっかりと聞いて、市議団としても対応、提案していきます。